

産業医科大学ニュース

No.458



CONTENTS

産業医学教育のあり方について.....
TOPICS.....
科学研究費採択状況.....
医学の広場.....
みんなの広場.....
INFORMATION.....
海外出張・留学状況.....
人事.....

2003

11

産業医学教育のあり方について

平成15年10月29日（水）医学部の臨時教授会が開催され、卒前における産業医学教育の充実に向け検討が行われました。

本学医学部卒業生に産業医資格取得!!

（現行）

従前は医師であれば誰でも産業医となることができましたが、平成8年度以降は、厚生労働省が定める一定の要件を備えた医師でなければ産業医として選任できなくなりました。その要件の一つである「厚生労働大臣が定める健康管理等を行うに必要な医学知識についての研修」に本学の「産業医学基本講座」が指定され、本学医学部卒業生は、医学部卒業直後から開講される2ヶ月間の「産業医学基本講座」を修了することにより、産業医資格を取得していました。

（制度的補助金への移行）

本学の補助金は、設立趣旨である「優れた産業医の養成」と「産業医学の振興」に対するものであります。これを法律等の根拠に基づく制度にすることが重要です。この具体的方策の一つとして、大学においては、医学部教育に産業医資格を取得することができる制度の確立を図る必要があります。

（卒前における産業医学教育の充実）

本学の設立趣旨をより徹底するため、産業医学教育を卒前教育において充実するなどそのあり方について検討が求められておりました。

また、平成17年度からは初期臨床研修の開始時期が4月からとなり、卒業直後には「産業医学基本講座」の受講ができなくなります。卒前教育と

直結した卒後教育で産業医資格が取得できなくなると、その後の産業医修練に支障をきたし、優秀な産業医の養成確保を設置目的とする本学にとって重大な問題です。

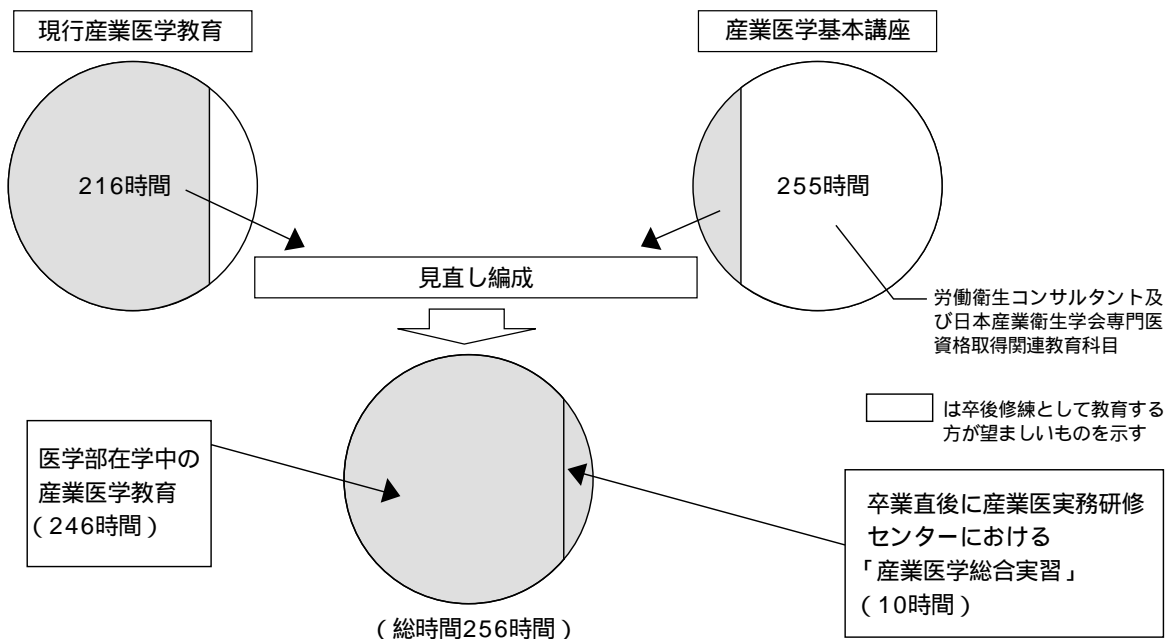
（医学部教育改正）

1. そこで、大学では平成15年1月以降、厚生労働省と調整をしてきたところですが、平成15年10月、厚生労働省から、「厚生労働大臣が定める健康管理等を行うに必要な医学知識についての研修」に相当する産業医学教育を医学部教育課程に組み込むことにより本学医学部卒業生については、初期臨床研修修了時点で産業医資格を付与するとの方針が示されました。

2. 平成16年4月入学生から、医学部1年から6年までの各学年で産業医学科目（246時間）の履修と、卒業直後の初期臨床研修開始直前に産業医実務研修センターにて産業医学総合実習（10時間）を行う準備をしております。

（在学生への措置）

また、現に在学する5年次以下の学生に対しても、経過措置として医学部在学中に補講（30時間）及び卒業直後の産業医学総合実習（10時間）を加えることにより、改定カリキュラムと同等の産業医学教育を行い、初期臨床研修修了後に産業医資格を取得できるよう措置することとしています。



TOPICS

第21回産業医科大学学会開催 ～ 日本学術会議会長 黒川 清氏ご来訪～

10月23日（木）午前9時から、ラマツイーニホールにおいて、第21回産業医科大学学会が開催されました。

総会、学会長賞授与式及び受賞者2名の講演が行われ、午後は、「産業医学研究支援施設～現在の研究と将来像～」をテーマとしてシンポジウムが開催されました。

続いて、東海大学総合医学研究所 所長・教授/日本学術会議会長 黒川 清氏による「21世紀：日本の課題」と題した特別講演が行われ、会場は多数の医学部学生及び教職員によりほぼ満員となりました。先生の熱意溢れるご講演では、特に若い世代へ力のこもったエールが送られ、大変刺激的な内容でした。

黒川 清先生のご講演要旨

- 1 21世紀、日本の課題と挑戦は「プロ」を育てるということである。

経済の低迷、様々な国内情勢の中で元気がないといわれている日本をワクワクさせ、元気つけているのは、世界的に活躍しているメジャーリーグの野茂英雄に始まり、イチロー、佐々木、松井、サッカーの中田、ゴルフの丸山達である。この20年間、交通と情報の手段が発達し、彼らの活躍がライブ映像で見られるようになった。世界のプレーヤーと一緒に頑張っている姿を見て日本人は誇りに思い、自信をもち、元気になるのだ。彼らは組織や肩書に頼らない本当の意味でのプロであり、今後、日本が元気になるためには、肩書でなく評価できる本当のプロを若い人の中から育てなければならない。

- 2 現代社会のキーワードは「グローバリゼーション」である。

交通と情報のコミュニケーションの技術が広がり、世界が地理的に狭くなり、情報は瞬時に世界に広がる。さらに日本は経済大国となり、年間1800万の日本人が外国へと出ている。グローバリゼーションという社会構造になったわけだ。その結果、国内向けの議論では世界に通用しないことがいくつもあることが明白となった。その典型例が、瀋陽の総領事館事件である。事件のやり取りを世界中の人が見て、‘日本は本質を突いてこない国だ’と思われ、世界から信用されない国になっていく。

- 3 20世紀の特徴は3つ：（1）世界戦争 （2）科学技術の進歩 （3）医学の進歩である。



1903年にライト兄弟が動力飛行機での飛行に成功し、わずか10年後の第一次世界大戦では戦闘機が飛び交い、1905年アインシュタインの相対性理論発表から40年後原子爆弾が日本に落とされ、終戦となった。IT革命へと発展した情報革命も戦争と切り離すことができない。

医学の進歩は、感染症との戦いと言っても過言ではない。1794年ジェンナーの種痘、フレミングのペニシリンの発見、結核に効果がある初めての薬ストレプトマイシンの発見は大きい。20世紀初頭にパスツール（仏）、コッホ（独）、北里柴三郎、志賀 潔、野口英世らが活躍した。特に日本人研究者の活躍は目覚ましかった。第一回ノーベル医学生理学賞を受賞したのはベーリングのジフテリア血清療法であるが、これは北里の破傷風抗毒素血清の研究をもとにしている。北里はまた、香港でのペストの大流行に赴いてペスト菌を初めて見つけ論文にしている。残念ながら論文の記述が不正確だったが、北里は大変な貢献をしている。高い志と熱意を持った日本人が沢山いた。

4 日本の近代国家は、若いリーダー達によってもたらされた。

明治維新を経て、日露戦争に勝利した日本の近代化は、吉田松蔭、坂本龍馬、井上馨、福沢諭吉、伊藤博文ら若い世代の燃えるような情熱と高い志によってもたらされた。彼等はみな30歳前後であった。現代の高齢化社会でも、イギリスのブレアは43歳で首相になり、クリントンは46歳でアメリカ大統領になっている。若い人達を責任あるポジションにつければ必死になって頑張る。なぜなら彼等は将来を見とどけることになるのだから。

5 東洋医学と西洋医学がせめぎ合い、そして西洋医学が日本全国に広まった。

ジェンナーの種痘が、日本では長崎、金沢そしてお玉が池で種痘所が開設され、その劇的な効果により西洋医学はすごいということが分かり、全国に広まった。また、高木兼寛は、脚気の原因を疫学研究により、森林太郎（森鷗外）の細菌説を覆した。高木は鹿児島出身であるが、この他にも、高安病、橋本病、アショッフ-田原の結節と医学書に名前が冠された医学者が九州から多く輩出されている。これらは1901年～1910年のわずか10年の出来事である。

6 日本は第二次大戦に敗北し、その後目覚ましい経済成長を遂げたが..。

第二次大戦の敗北により日本でのドイツ式医学教育は、アメリカ方式へと転換を試みたが..。1980年代になると「政・産・官の鉄のトライアングル」が形成された。ここに「学」が入っていなかったことは異常である。そして、終身雇用、年功序列、大きな退職金制度に支えられ、歴史の大きな「うねり」が見えずに、「うねり」の上の「さざなみ」に対応する歴史観、世界観の不十分な日本の「リーダー達」によって導かれた。適当にやっていたために、1995年にそれを象徴するようなことが立て続けに起こっている。それが、阪神・淡路大震災で倒壊した高速道路の手抜き工事であり、また、教育の崩壊により優秀な人材を正しく育成することが出来なかった結果として起こったともいえる東

京地下鉄サリン事件であった。今になって、「産・官・学」と声高に叫んでいる。そして住専の約7,000億円の公金注入である。

7 最後に

日本には資源はない。人が資源。人材を育成することが大切だ。医学生の実践は大変でしょうが、他の本もたくさん読み、歴史観や世の中での考え方、動きを認識しなければならない。どのようにして社会的責任を果たさなければならないかを考えて、一生懸命にやってほしい。

若い人には、高い志と燃えるような情熱をもって頑張ってもらいたい。

ご講演中に推薦された参考図書：

- トーマス・フリードマン：「レクサスとオリーブの木」
- 小室直樹：「日本人のためのイスラム原論」
- サミュエル・ハンチントン：「文明の衝突」
- 吉村昭：「雪の花」
- 「白い航跡」
- 福沢諭吉：「学問のすすめ」
- 司馬遼太郎：「坂の上の雲」
- ルース・ベネディクト：「菊と刀」
- 池上英子：「名誉と順応」
- 朝河貫一：「日本の禍機」
- ジョン・ダワー：「敗北を抱きしめて」

プロフィール：

ご略歴：

- 昭和37年 東京大学医学部卒業
- 昭和54年 UCLA医学部内科教授
- 平成元年 東京大学第一内科教授
- 平成8年 東海大学教授、医学部長
- 平成14年 東海大学総合医学研究所所長
- 平成15年 日本学術会議会長

主な学会活動：日本内科学会理事、日本腎臓病学会理事、日本臨床代謝学会理事、日本透析学会会長、国際腎臓病学会理事、国際内科学会会長、日本学術会議会長

受賞歴：平成11年紫綬褒賞

ホームページ：www.kiyoshikurokawa.com

(第1生理学 上田 陽一)

第21回産業医科大学学会会長賞受賞者

氏名 (所属)	学術発表内容
鳥越 貴行 (大学院生)	Enhanced expression of the human vacuolar H ⁺ -ATPase c subunit gene (ATP6L) in response to anticancer agents (The Journal of Biological Chemistry 277(39):36534-36543,2002)
守下 敢 (大学院生)	Vasculoprotective roles of neuronal nitric oxide synthase (The FASEB Journal (October 18, 2002) 10.1096/fj.02-0155fje)

優秀ポスター賞受賞者

氏名（所属）	演題名
安次富 郁哉 （医学部医療科学）	介護労働者のストレス評価に関する研究
廣瀬 直文 （医学部眼科学）	眼鉄錆症の発症機序に関する研究
井上 仁郎 （生体情報研究センター）	防音保護具性能評価に関する各国規格の比較

（産業医科大学学会事務局）

科学研究費採択状況

【厚生労働省：厚生労働科学研究費補助金】

（単位：千円）

	氏名	講座等名	職位	事業名	課題名	交付内定金額
1	松田 晋哉	公衆衛生学	教授	政策科学推進研究事業	急性期入院医療試行診断群分類を活用した調査研究	240,000
2	田中 良哉	第1内科学	教授	免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業	免疫難病のシグナル異常と病態解明・治療応用に関する研究	21,000
3	大槻 眞	第3内科学	教授	難治性疾患克服研究事業	難治性膝疾患に関する調査研究	20,000
4	辻 貞俊	神経内科学	教授	難治性疾患克服研究事業	脊髄小脳変性症の画期的診断・治療法に関する研究	15,000
5	織田 進	健康管理部	教授	労働安全衛生総合研究事業	労働者の自殺原因に関する研究	9,100
6	東 敏昭	作業病態学	教授	労働安全衛生総合研究事業	今後の産業保健のあり方に関する研究	12,000
7	川本 俊弘	衛生学	教授	肝炎等克服緊急対策研究事業	職場における慢性肝炎の増悪要因（化学物質曝露等）及び健康管理に関する研究	6,000
8	大和 浩	労働衛生工学	助教授	がん予防等健康科学総合研究事業	空間分煙と禁煙サポートからなる包括的な禁煙対策の有効性の検討と優れた喫煙対策プログラムの普及に関する研究	7,410
9	松田 晋哉	公衆衛生学	教授	厚生労働科学特別研究事業	医療機器関連産業における附帯的サービスの実態調査	2,000

9件 332,510千円

【環境省：廃棄物処理等科学研究費補助金】

（単位：千円）

	氏名	講座等名	職位	事業名	課題名	交付内定金額
1	谷口 初美	微生物学	教授	廃棄物処理対策研究事業	廃棄物処分場のバイオ評価に関する研究	28,173

1件 28,173千円

第3回産学連携フェアに参加して

産業生態科学研究所

人間工学研究室 泉 博之

労働衛生工学研究室 大神 明

作業病態学研究室 吉積 宏治

10月8日から10日までの3日間、『知と技術の融合 ~ 持続可能で豊かなものづくり社会を目指して~』をテーマとして第3回産学連携フェアが、北九州学術研究都市において開催されました。このフェアの開催趣旨は、北九州地域の大学・企業などの研究成果や取り組みを幅広く紹介し、ニュービジネスパートナー発見のための情報発信と交流の場を提供することであり、この趣旨に添って基調講演や各種セミナー、そして大学や企業による展示会が行われました。



我々が参加した展示会では、企業としては新日本製鐵八幡製鐵所、安川電機などをはじめとする19の企業が、大学としては我々の他に北九州市立大学、九州工業大学、近畿大学、早稲田大学などの11大学が展示を行っており、TLOや公的機関を含めると、44の機関が参加する大規模なものでした。

我々産業医科大学は、『あなたの職場を快適に』をテーマとして、産業医科大学が提供できる産業保健サービスを、作業管理・作業環境管理・健康管理の3つの視点から紹介する展示を行いました。各展示内容に関して一言で紹介すると、作業管理については「人間工学に基づいた機器開発設計」、作業環境管理については「工学に基づく効率的分煙空間の設計」、健康管理については「最先端センシング技術を用いた健康関連データ収集と健康管理」といった感じになります。パネル、ビデオ、そしてコンピュータを駆使し、「初めての人にも分かり易く」をモットーに企画・展示しました。その甲斐あってか、我々のブースへの来場者は予想以上に多く、興味を持っていただけた方も多かったのではないかと感じています。

展示会全体としては、情報技術やリサイクルなど、

人の生活環境に関する技術的な展示が多い反面、人と直接関係する産業医学・産業保健や福祉関連などの展示がとても少ないと感じました。少し残念に思いましたが、その分、この分野におけるこれからのビジネスチャンスに期待がふくらみます。

今回の展示を通じて感じたことは、我々が提供できることを一方的にアピールするだけでなく、我々が必要としていることについても積極的にアピールしていく必要があるということです。なぜなら情報処理技術やセンシング技術などの先端技術を我々が積極的に取り入れ、提供できる産業保健サービスの向上に役立てることも重要ではないかと考えるからです。NeedsとSeedsの両方を提供することで、より意味のある活動につながると私は考えています。

展示以外では、産業医科大学は2つのセミナーを主催あるいは共催しました。ひとつは、“遺伝子発現から疾病治療へ” - 多機能性サイトカインエレノの臨床応用 - と題したセミナーであり、もうひとつは、北九州医療IT研究会と財団法人九州ヒューマンメディア創造センターとの共催で、「医療情報関連技術の動向」と題したセミナーが開催され、会場には多くの聴講者が集まっていました。

第一日目の最後に行われた交流パーティは、経済産業省九州経済産業局長をはじめとして、福岡県や北九州市の産業学術振興にかかわる機関あるいは企業や大学関連からの多くの出席者で賑わっていました。このフェアに対する産学官それぞれの力の入れようが感じられました。

今後、このような活動を継続することは、産業医科大学が、産業保健サービスを提供する中心的存在であることをアピールするために大切なことであると思います。

最後に、今回の産学連携フェアには、全学を対象として募集した結果、応募した労働衛生工学研究室、作業病態学研究室、人間工学研究室が、田中勇武教授を中心に企画を行いました。今後は、より多くの講座・研究室が参加し、より活発な活動となることを期待致します。

(泉 博之)



平成15年度産業医科大学 実験動物慰霊祭行われる

10月2日(木)午後4時、本学4号館動物研究センター動物慰霊碑前において、教職員、実験者約160名が参列し、第24回実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われました。柳原延章動物研究センター長の開会の辞の後、参列者全員で黙祷を捧げ、続いて、大久保利晃学長より、動物実験の必要性和実験者の倫理的な心構えについての挨拶があり、次に、動物実験および飼育倫理委員長中村利孝教授より、現在の倫理審査状況と動物実験を取り巻く社会環境を省みて実験者個人が今一度生命倫理の原点を考える時期に来ているとの挨拶がありました。実験者代表の免疫学の杉浦勉講師から、実験の犠牲になった諸霊に対する深い感謝と生命の尊厳を忘れないとする献辞が捧げられ、最後に参列者全員で献花を行い、慰霊祭は厳粛のうちに終了しました。

昨年9月より本年8月までに動物研究センターにて実験に供された動物は、マウス19,381匹、ラット3,493匹、ハムスター86匹、モルモット85匹、ウサギ258羽、スナネズミ81匹、カエル111匹であり、特

にマウスは昨年の2倍に増加しています。多数の尊い動物達の生命が産業医学研究の発展に貢献しました。

また、10月10日、2号館において熊本大学副学長、熊本大学発生医学研究センター器官形成部門臓器形成分野教授 山村 研一先生を講師として招聘し、ゲノム機能の解析においては今やなくてはならない存在となった遺伝子操作マウスに焦点を当て、「ゲノム医学と遺伝子操作マウス」と題して大学院特別講義が行われました。教官、学生を含めて約60名の参加者があり、ホットな話題だけあって講師の先生に活発な質問が行われました。(動物研究センター 宮田 博規)



第30回消防操法大会に参加して

9月26日(金)北九州市八幡西区の株式会社デンソー北九州製作所グラウンドで、第30回消防操法大会が行われました。大会では、八幡西区内の企業、病院、役所などの各事業所で組織されている自衛消防隊が、屋外消火栓・屋内消火栓・小型ポンプでの初期消火を競い、消火活動の安全面・迅速さ・正確さ・規律などが審査されます。

本学自衛消防隊は、実に5年ぶり、初の男女混合チームで屋内消火栓の部に参加しました。屋内消火栓



の部は本学を含め4チームの参加です。通常は第1位と第2位のみが表彰されるのですが、今回は北九州市政40周年の記念大会ということで、特別賞も授与されることになり、実際のところ第3位が特別賞、第4位になると何も無い...という状況になります。第4位だけは避けたいなあと思っていましたが、他の3チームは、毎年出場の手強すぎる面々です。

8月の終わり、残暑の厳しい日差しが照る中、消防署の方の指導のもと、合同練習を始めました。まず、大きな声を出すこと 足を開く角度は45度「気をつけ」の時の指先は、ズボンの折り目の横ラインに合わせること.....(その他注意点たくさん)。初回の練習から、実に高校時代の体育の時間を思わせ、行く先は困難だ...と予感させられました。

しかし、大会本番までの1ヶ月間、合同練習や仕事の後の練習、また消防署OBの方の指導により、久々の出場で何も分からない私達を初めは心配してくださっていた消防署の方から、なんとかOKを出していただけるくらいまでには、形にできるようになりました。

さて、大会当日、屋内消火栓操法開始です。「駆け

足進め」から定位置に移動、また、「駆け足進め」で退場するまで、今となってはほとんど覚えていないくらい緊張していましたが、今までのどんな練習よりも、みんなの気合も満点、ミスもほとんどなく、最高の出来だったと自負できる内容だったと思います。

しかし、結果は…。残念ながら何も表彰されませんでした(だれも第4位とは言わないけれど)、数年ぶりに競技会なるものに出場することになり、チームで目標を目指して練習をしたことが久々の体験で、良い気分転換になりました。

最後に、これまで根気良く指導してくださった

方々に感謝するとともに、この貴重な体験で学んだことを今後の仕事や日常生活の中で生かしていきたいと思います。

出場者	監督	畑間 俊宏
	指揮者	榎田 智子
	1番員	香月 和之
	2番員	大瀬 圭祐
	3番員	山崎 貴子
	補欠	加藤 秀樹

(人事課 榎田 智子)

平成15年度

女子学生寮自主防火訓練実施

10月14日(火)午後6時10分、薄暗い中、女子学生寮において、寮生97名中73名が参加し、自主防火訓練を実施しました。

八幡西消防署折尾分署から消防自動車及び救急車各1台が出勤し雰囲気も高まってきた中、3階補食室から出火したとの想定で、消防署員の指導のもと自衛消防隊を中心に、通報、消火、避難誘導の訓練を受けました。

毎年、この時期に訓練を行っていますが、何度経験しても緊張する訓練で、寮生も神妙な態度で臨んでいました。日頃、手に持ったことのない消火器を使っての消火訓練や実際に屋内消火栓からホースを出しての取扱訓練など、皆、興味を持って消防署員の説明に耳を傾けていました。

訓練終了後は、医学部学生委員会委員の柳原延章薬理学教授から、寮生活における火の取扱いの注意及び寮生としての心構えについて話があり、最後に消

防署の方からの講評として、「全体的には良くできているが、もう少し機敏な行動をするように」との指摘を受けました。

火災を出さないことが1番ですが、万が一、火災が発生した場合に備え、来年度は今回の指摘を踏まえて更に充実した訓練を実施したいと思います。

今回、八幡西消防署折尾分署の方をはじめ、関係者の皆様にご協力をいただき、大変感謝しております。

(学生課)



職員ボウリング大会行われる

10月14日(火)から17日(金)の4日間、折尾スターレーンにおいて、福利厚生事業の一環として毎年恒例の職員ボウリング大会が行われました。

初日の14日午後6時、山中理事長の挨拶の後、看護部の大鶴智子さんが始球式を行い、続いて参加者50名が一斉にプレーを開始しました。

好プレーや珍プレーの一投ごとに歓声や嘆声、拍手があちこちで上がっていました。プレー終了後には懇親会が開かれ、成績発表やビンゴゲームでも大いに盛り上がり、参加者全員が楽しいひと時を過ごしていました。

4日間で合計209名の職員が参加し、いずれの日も盛会のうちに終了しました。

総合の上位表彰者は次のとおりです。

【男性】

優勝	田中 哲司	情報システム企画課
準優勝	中島 三郎	事務局長
第3位	新開 浩二	薬理学
第4位	上村 秀彦	中央材料部
第5位	田中 幹二郎	学事課



【女性】

優勝	津村 由美	看護部外来
準優勝	神谷 理絵	契約課
第3位	藤野 コリ子	第1看護学
第4位	久保 貴子	卒後修練課
第5位	大田 紘子	看護部4B病棟

(職員課)



アイバンク登録者の眼科無料検診実施

10月8日(水)午前9時から、病院眼科外来において、アイバンク登録者の眼科無料検診を実施し、102名の方が受診されました。

産業医科大学アイバンクは、昭和58年1月に福岡県医師会眼科銀行の支部として開設されて以来、死後角膜を提供してもよいという方に登録していただき、目の不自由な方に角膜を移植する一連の業務を行っています。

なお、9月末現在の登録者は、1,992名となっています。(病院管理課)



院内コンサート～秋の音楽祭～開かれる

10月19日(日)午後4時、病院1階待合室ロビーにおいて、医生祭実行委員会医療部主催による院内コンサートが開かれました。

このコンサートは、学生が、患者様に楽しいひとときを過ごしていただき、一日も早く回復へと向かっていただきたいという願いを込めて毎年行っているもので、今年も多くの患者様やご家族の方たちに聴きに来ていただきました。

重松病院長の挨拶のあと、邦楽部の琴と尺八による「さくら」、「荒城の月」、管弦部の「パッヘルベルのカノン」、ギターマンドリン部の「少年時代」、「海に見える町」、コーラス部による「青春の輝き」など

が次々に演奏され、会場に流れる優しい音色や歌声に、来場者は静かに耳を傾けていました。最後に、「明日があるさ」を全員で歌い、1時間のコンサートを終えました。





第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会 合同大会を開催して

去る10月10日（金）から12日（日）の3日間、北九州市国際会議場において、「国際保健からみた地域開発 - 熱帯医学における学際的アプローチ -」をメインテーマとして、第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会が平成15年日本医学会分科会総会（福岡）の第64分科会として開催されました。2つの学会は、ともに海外での活動を基盤にするという点で相通ずるものがあります。今回、2つのそれぞれ特長のある学会の刺激的交流を目指し、初めて同一会長のもと合同大会が開催される運びとなりました。

吉村健清合同大会会長の開会の辞に始まり、北九州市市長 末吉興一様および国際協力機構



〔尾身茂先生〕振り返って」というタイトル

でご講演いただきました。感染拡大から収束までの4ヶ月間、実際にSARS対策の指揮をとられた先生ならではの臨場感あふれる力強いご講演でありました。また、学会初の試みとして、9つの国・地域；バングラデシュ、中国、太平洋島嶼、中米・カリブ、ベトナム、ザンビア・マラウイ、インドネシア、ネパール、ケニア・タンザ

ニアを設定した9つのワークショップを開催しました。そのワークショップの総括として、「これからの熱帯医学、国際保健医療 - 9つの国・地域からの提言 -」と題するシンポジウムが、各ワークショップの座長をシンポジストに迎え、大阪大学 中村安秀先生の座長のもとで行われました〔写真1〕。活動分野・活動母体が異なった者が一同に会したこの試みが、同じ対象住民を見据えた横断的連携のひとつの出発点になると期待されております。

教育講演は、長崎大学の森田公一先生による「最近の新興感染症 - 西ナイル脳炎 -」、海外勤務健康管理センターの濱田篤郎先生による「もう一つの国際保健・海外渡航者の健康問題」、国立国際医療センターの小原博先生による「SARS：どう迫ったか」、厚生労働省の牛尾光宏先生による「感染症研究に行政が期待すること」の4講演が行われました。シンポジウムは前述9つのワークショップ総括のシンポジウムの他に「21世紀の国際保健医療協力をそれぞれの立場から語る」（座長：長崎大学 嶋田雅暁先生、東京大学 神馬征峰先生）、「ゲノム時代における研究室からフィールドへの発信」（座長：国立国際医療センター研究所 狩野繁之先生、産業医科大学 金澤保先生）、「熱帯感染症の臨床：途上国の実態と輸入感染症の動向」（座長：東京都立北療育医療センター 増田剛太先生、長崎大学 大石和徳先生）の3シンポジウムが行われました。このように、教育講演およびシンポジウムは合同大会ということもあり幅広い内容となりました。

初日に行われた懇親会では、大久保利晃学長、伊規須英輝産業生態科学研究所長の挨拶の中で、



〔写真1〕

わが大学が産業医学という観点から国際社会に貢献していることを両学会員の皆様に紹介して頂きました。

さらに、合同大会会場内には紹介ブース(NGO)が設けられ、NGO・NPOがそれぞれの活動を紹介する貴重な場を提供することができました。一般ポスター発表は147演題が発表されました。両学会員の区別なくセッションが生まれ、学会の垣根を越えた熱い討論が繰り広げられました。最終日の12日には関野吉晴先生による市民講座「グレートジャーニー、出会いと発見の旅」が開催されました。日中は汗ばむほどの快晴で天候にも恵まれ、3日間を通じて520名という予想以上の方に参加して頂くことができました。講

演・シンポジウム・ワークショップにおいてもフロアからの発言が活発であったことは、合同大会が双方向性のコミュニケーションの場として重要な役割を果たしたのではないかとひそかに自負しております。また、同時に、熱帯医学・国際保健というグローバルな枠組みの中で産業医学に取り組んでいくことの必要性も感じました。

最後になりましたが、合同大会の開催に向けてご協力頂いた皆様に厚く御礼を申し上げます。尚、合同大会プログラム抄録集に若干予備があります。ご希望の方は、tm-ih@azul.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡下さい。

合同大会事務局長 井手 玲子
(臨床疫学研究室)

九州麻酔科学会第41回大会開催

九州麻酔科学会第41回大会(会長:佐多竹良教授)が、平成15年9月27日(土)、本学ラマツィーニホールにおいて開催されました。北九州での開催は、第19回、第30回以来3回目で、好天の中、九州内から348名の麻酔専門医の参加の下に盛大に行われました。

一般演題は90題と多くの応募を頂き、麻酔科学分野、集中治療からペインまでの幅広い領域で熱心な討論がなされました。



特別講演は本学産業生態科学研究所人間工学 神代 雅晴教授に「人間はどうして誤りを冒すのだろうか?」の題で、リスクマネジメントを考える上で大変示唆に富む御講演をしていただきました。

ランチョンセミナーでは、大阪市立大学医学部集中治療医学助教授 西 信一先生に「集中治療領域で期待される鎮静薬」についてご講演いただきました。

今回、日本麻酔科学会の強い希望で、市民になじみの薄い麻酔科の役割を広く理解してもらうために市民公開講座を開催し、本学麻酔科学 古賀和徳講師による「痛みからの解放をめざして」と

題したペインクリニックの話題を参加された一般市民85名の方々にご聴講いただきました。

また、学会と平行して、日本麻酔科学会二次救命救急(ACLS)コースを病院西別館で開催し、応募された30名の学会員に対して二次救命救急処置の講義とトレーニングを行い、大変好評でした。



最後に、本学学生食堂にて会員懇親会を開催し、和やかな雰囲気の中、無事終了しました。

素晴らしい御講演を頂いた神代教授をはじめ、学会準備から当日の会場運営まできめ細かく御協力いただいた産業医科大学教職員(視聴覚・手術部・ICU)の皆様に深く感謝致しております。ありがとうございました。

(麻酔科学 緒方 政則)

みんなの広場

コスモス ウォーク in 山口

「秋を感じながら、100万本のコスモスの中を歩いてみませんか？」

テレビキャスターの山本華世さんの軽妙な司会、挨拶で始まった豊浦コスモスウォーク in 山口。卒後修練課占部氏、契約課蒲原氏、教務第1課遠藤氏と私、4人の参加である。

場所は、山口県豊浦町、リフレッシュパーク豊浦。主催者発表では参加者1,000人とのこと。受付会場で500円の会費を払い、初めての‘チャレンジコース’20キロに挑む。

小川のせせらぎを聞き、フラットな畦道を歩く、等々、楽観的に考えていたのだが…。いやいやそうではなかった。始めから山登り、国清山展望台、先が思いやられる。まだこの時点では5キロ、10キロ、20キロ、各コースの参加者全員が団子レースの如く登って来る。アップダウンの続く妙青寺 - 青龍湖 - 三恵寺 - 国見台。なかなかシャレたウォーキングコースである。‘小倉歩こう会’の旗を持った集団が急坂を登って来る。雪中行軍ではないが50人程の男女老人行軍だ。占部氏と顔を見合わず。「すごいね」「うん、すごい」挨拶を交わしながら、私もいつか初年兵老人行軍に足を突っ込むのであろうか？...と思う。

ようやく平道に出る。前方より女性2人がニコニコ手を取り合い進んでくる。ぼちぼち田舎風景へと入って行くと、コスモスの世界が広がる。川棚川に沿い見事な色彩を放ち、山風を受けて左右に揺れる。最高のコースではなかろうか。柿も色づき、小川を見渡すとハヤだろうが、素早く岩陰に身を踊らせる。

遠方、農道の派手な大パラソルの下に人が3、4

人見える。「ハハーン」あそこが中間の10キロ地点かな。コスモスを左右にルンルン気分…。疲れず、早目にゴールできそうだと思い込む。「違った！」大根、ネギ、その他...農家の方がこの行事を目当てに出店を出していたのだった。「ガックリ...」である。コースの矢印が、まだ遠くに見える。「何処まで歩けば良いのだろうか...」と一人でブツブツ。ようやく折返し点に到着。川棚クスの森、天然記念物の大樟と若い女性の係員が迎えてくれ、お茶と10分の休憩。少しではあるが足に疲れを感じる。

「サー」今度はゴールを目指すだけ。途中までは同じコースをたどるが、行きと帰りとは目に入る風景が異なる。少し熟した柿が小川にかぶり、その前方にコスモスが咲き乱れている。思わず、安いカメラのシャッターを切る。できあがりを楽しみである。主催者も20キロのコース取りに苦慮されたのであろう。温泉街を尻目に、ゴールが近いのにわざわざ遠回りである。

立派な公園の芝の中にゴール地点がある。遠くで女性係員のかん高い「ゴール、ゴール」の声が聞こえる。ゴールだ！

さて、帰りのコースをどうするか、いつもの如く風呂が先か食事が先かで悩む。「たかせ」の瓦そばと「たかせ」の100円風呂に決定。蒲原氏の太鼓腹を見せていただき、帰路へ。

遠藤氏の愛車‘HARRIER’は快調である。少し冷たくなった西風を浴びながら関門橋を渡る。夕陽が玄界灘を朱色に染めながら、一日が暮れていく。妻子を忘れた男4人、つつましい1日の遊びの終了である。

陽の沈む 彩あでやかに 初紅葉

(総務課 今田 護)



INFORMATION

オリオンゼミのご案内

(産業生態科学研究所研究会) - 学生、事務の方もどうぞ -

回数	日時・場所	演者	演題
176	平成15年12月15日(月) 17:00~19:00 産業生態科学研究所 東棟4階講義室 (5476室)	タナカ 千恵子 (環境疫学)	カナダで医師になるには
		古木 勝也 (作業病態学)	産業保健活動の投入時間について
		ジャン ドゥーソップ (産業保健経済学)	産業保健マーケティングの最近の動向 - 同研究会と関連研究について -

連絡先：職業性腫瘍学 河井 一明 (内線2836)

平成15年度 日本医師会認定産業医 基礎研修会特別集中講座開講にご協力を

平成15年12月18日(木)~12月23日(火)開催

平成15年度日本医師会認定産業医基礎研修会特別集中講座が、本学ラムツィーニホールをメイン会場に開催されます。期間中は、400名を超える受講者が全国各地から来学され、送迎のために下記のとおり市営バス(臨時便)及び近郊ホテルからの大型バスが構内に乗り入れますので、事故防止のため運行経路への路上駐車は厳禁とします。付近を通行の際は十分に注意のうえ誘導員の指示に従っていただきますようご協力願います。

記

バス運行日程

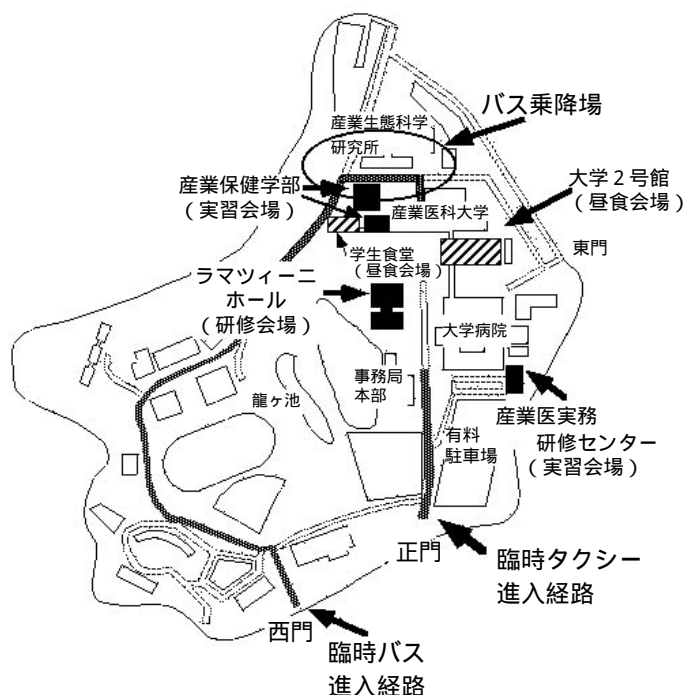
日時 12月18日(木)~12月23日(火)

乗入れ時間

バス運行経路：西門からアイソトープ研究センター横まで

バス乗降場：(降車)RIセンター横
(乗車)産業生態科学研究所前
(センター庶務課)

日本医師会認定産業医基礎研修会
特別集中講座臨時バス・タクシー進入経路



INFORMATION

産業医学推進研究会 九州地方会 開催のお知らせ

産推研の会員、非会員に関わらず、また教員、学生のみなさんも含め奮ってご参加ください。多数の皆様参加をお待ちしております。

日 時：11月29日(土) 午前10時～11時半

場 所：産業医実務研修センター

テーマ：企業活動としての産業保健
「共通の言語」の探求

講 師：森 晃爾 先生

(産業医実務研修センター所長)

*会終了後、ささやかな懇親会を準備する予定です。

また当日午後ラマツィーニホールにおいて、労働者の自殺予防に関するシンポジウムを開催する予定です。併せてご参加下さい。

事務局：内田(産業医実務研修センター)
堀川(第3看護学)

コーラス部 第21回定期演奏会のお知らせ

今年も、笑いあり涙ありの楽しいステージを用意しています。入場料も無料となっていますので、ぜひお気軽に聞きにいらして下さい。

記

日 時：2003年11月29日(土)

開場 17:30 開演 18:00

場 所：若松市民会館(若松駅より徒歩3分)

曲 目：第一ステージ

主よ人の望みの喜びよ 他

第二ステージ(企画ステージ)

ミュージカル「CATS」より

第三ステージ

混声合唱組曲「月光とピエロ」

第四ステージ

混声合唱組曲「未来への決意」

入場料：無 料



(産医大コーラス部 佐々木 七恵)
Tel 090-1923-6606

図書館からのお知らせ

1 図書館ニュースNo.31の紹介

目次は下記のとおりです。

- 1) 産業医学図書情報：VDT作業の労働衛生管理
コンピュータの普及により増加したVDT作業者の健康障害や作業環境管理について解説している図書について紹介しています。

- 2) 「視聴覚資料情報：ドキュメンタリー編」
戦後の画期的な事業を実現させてきた「挑戦者たち」の姿を描くNHK製作のドキュメンタリー「プロジェクトX 挑戦者たち DVD」を紹介しています。

- 3) 「情報検索講座：データベース Cochrane Library：EBMのためのツール編」
臨床研究を吟味し、臨床家に対して現時点で

の標準的な治療、予防の情報を提供しているCochrane Library(コクラン・ライブラリー)について、データベースの概要及び検索方法を紹介しています。

4) 「Information」

2004年版図書館購入雑誌等についての情報を掲載しています。

- 2 『今月のトピックスのテーマ=分野別インパクトファクター上位ランク雑誌』

2001年版および2002年版の分野別インパクトファクター値を調査し、上位ランク雑誌をリストアップしています。

詳細は図書館ホームページをご覧ください。

(図書館課)

INFORMATION

健康管理センターからのお知らせ

B型肝炎ワクチン接種のご案内

対 象

原則として業務上血液等の体液や患者と接する機会がある職員(アルバイト含む)のうち、健康診断でHBs抗体が30mIU/ml未満であり、ワクチン接種を希望する方となります。

接種方法

過去にB型肝炎ワクチンを接種されたことのない方
3回の接種を行います。

過去接種歴があり、抗体値が基準値以下に下がった方
1回の追加接種を行います。

接種時期・日時

【11月の接種日時】

11月17日(月)~21日(金) 13:30~14:30

【12月の接種日時】

12月15日(月)~19日(金) 13:30~14:30

申込方法

接種を希望される方は、接種期間中に直接、産業医実務研修センター2階受付にお越し下さい。この時かならず健康診断結果報告書を持参してください。

なお、原則として健康診断を受けた月から3ヶ月の間に接種を受けてください。

接種場所等

産業医実務研修センター2階 健診場所

なお、不明の点につきましては健康管理センター
(内線3334)までお問い合わせ下さい。

(健康管理部)

心とからだの健康づくり

健康教育プログラム参加者の募集(11月開講分)

参加の申込みは、参加費を添え職員課(内線3123)までお願いいたします。

募集期間: 11月17日~11月26日

<健康・生涯教室>

1 「癒しと快適性の科学 - 自然の効果 - 」

講 師: 三宅 晋司 先生

(産業保健学部第2環境管理学教授)

開講日時: 11月27日(木) 17:30~19:00

定 員: 30名 男女不問

場 所: 大学本館6号館5階 6513実習室

参加費: 500円

概 要: 近年、「癒し」に関する関心が高まっています。世の中のストレスフルな世情を反映してのことでしょう。今回の話題はこの癒しに関する種々の研究について紹介致します。そして「癒し」とはどのようなことなのかについて考えてみます。具体的には、

香りはどのような影響があるのか、せせらぎや鳥の鳴き声などの自然音によって本当に癒されるのか、緑(植物)はどのような効果があるか、などについて説明します。これらはすべて自然の要素であり、自然の持つ癒し力について考えます。今回は座学中心で「実技」は少ないですが、デモもいくつか準備いたします。

(産業医実務研修センター)
総務部 職員課



海外出張・留学状況

講座等	職名	氏名	出張期間	用務	行先
放射線衛生学	助手	岡崎 龍史	H15.10.1 ~ H15.11.30	米環境健康科学研究所にて、NAG(NSAID Activating Gene) - 1トランスジェニックマウスを用いて、抗腫瘍抗炎症におけるNAG-1の生物活性の研究	アメリカ
衛生学	教授	川本 俊弘	H15.10.2 ~ H15.10.6	カリフォルニア大学デービス校にて共同研究打合せ	アメリカ
泌尿器科学	教授	松本 哲朗	H15.10.3 ~ H15.10.5	第20回日韓泌尿器科学会議出席	韓国
泌尿器科学	助教授	藤本 直浩	H15.10.3 ~ H15.10.5	第20回日韓泌尿器科学会議出席(発表)	韓国
泌尿器科	助手	野村 昌良	H15.10.3 ~ H15.10.5	第20回日韓泌尿器科学会議出席(発表)	韓国
公衆衛生学	助手	劔 陽子	H15.10.5 ~ H15.10.9	The 2nd Asia Pacific Conference on Reproductive and Sexual health 出席(発表)	タイ
公衆衛生学	助手	大河内 二郎	H15.10.5 ~ H15.10.15	第19回国際患者区分法学会出席、Cornell大学及びJohns Hopkins大学にて研究打合せ	アメリカ
産業保健管理学	教授	堀江 正知	H15.10.7 ~ H15.10.9	産業環境保健アジア太平洋地域シンポジウム出席(発表)	台湾
皮膚科学	教授	戸倉 新樹	H15.10.8 ~ H15.10.10	第13回日韓皮膚科学会出席(講演)	韓国
小児科学	教授	白幡 聡	H15.10.8 ~ H15.10.13	第5回国際ITSGワークショップ出席	イタリア
第1内科学	教授	田中 良哉	H15.10.10 ~ H15.10.13	第1回リウマチ学サミット出席	オーストラリア
第2内科学	教授	中島 康秀	H15.10.10 ~ H15.10.17	アメリカ脈管学会第50回記念学術集会	アメリカ
神経内科	学内講師	赤松 直樹	H15.10.10 ~ H15.10.18	第25回国際てんかん学会(発表)	ポルトガル
第1生体情報学	助手	安増 十三也	H15.10.11 ~ H15.10.19	第50回アメリカ脈管学会出席(発表)	アメリカ
麻酔科	助手	尾方 純一	H15.10.12 ~ H15.10.19	2003年米国麻酔会議出席(発表)、テキサス大学にて研究打合せ	アメリカ
生化学	教授	上野 光	H15.10.23 ~ H15.10.27	Future Forum Conference 出席	オランダ
第1内科学	教授	田中 良哉	H15.10.24 ~ H15.10.29	2003年アメリカリウマチ学会総会出席(発表)	アメリカ
呼吸器科	講師	吉井 千春	H15.10.25 ~ H15.11.1	アメリカ胸部医師学会出席(発表)	アメリカ
泌尿器科学	教授	松本 哲朗	H15.10.26 ~ H15.10.27	韓国尿路感染症研究会出席(講演)	韓国
臨床疫学	教授	吉村 健清	H15.10.28 ~ H15.11.5	IARC国際共同研究プロジェクト(原発労働者疫学調査)疫学専門委員会会議出席、ウエールズ医科大学疫学教室訪問	フランス、イギリス
職業性腫瘍学	教授	葛西 宏	H15.10.28 ~ H15.11.8	ストックホルム大学にて口演及び研究打合せ、フィンランド国立産業医学研究所にてUOEH - FIOH交換プログラム参加	スウェーデン、フィンランド

講座等	職名	氏名	出張期間	用務	行先
精神保健学	助教授	三島徳雄	H15.10.29~H15.11.5	解決志向実践に関する会議2003出席、ジェファーソン郡健康環境部局にて情報収集	アメリカ
第1病理学	教授	橋本洋	H15.10.30~H15.11.1	第5回日韓合同 Bone Tumor Club 出席、第8回日韓IAP合同スライドカンファレンス出席	韓国
第2内科学	助教授	太崎博美	H15.10.30~H15.11.4	第4回国際アフェシス学会出席(発表)	アメリカ
第1病理学	助教授	久岡正典	H15.10.31~H15.11.2	第5回日韓合同 Bone Tumor Club 出席(発表)、第8回日韓IAP合同スライドカンファレンス出席	韓国
内視鏡部	助教授	芳川一郎	H15.10.31~H15.11.9	第11回欧州消化器病週間出席(発表)	スペイン
第3内科	助手	久米恵一郎	H15.10.31~H15.11.9	第11回欧州消化器病週間出席(発表)	スペイン
労働衛生工学	教授	田中勇武	H15.10.31~H15.11.15	マレーシア国労働安全衛生能力向上計画プロジェクト参加	マレーシア

人事

医学部

発令年月日	区分	氏名	所属	職名
H15.10.31	退職	吉田雅文	耳鼻咽喉科学	助教授
H15.11.1	採用	鈴木秀明	耳鼻咽喉科学	教授
H15.11.1	配置換	小林美和	皮膚科学	助手

産業生態科学研究所

H15.10.31	退職	松岡雅人	環境中毒学	助教授
-----------	----	------	-------	-----

大学病院

H15.10.31	退職	塩田亜子	看護部	看護師
H15.11.1	任命	鈴木秀明	耳鼻咽喉科	部長
H15.11.1	派遣延長	原田修治	泌尿器科	助手

専門修練医

発令年月日	区分	氏名	所属	コース
H15.10.31	退職	横井公宣	産業医実務研修センター所長	産業医修練コース

歯科臨床研修医

H15.10.31	退職	城野嘉子	歯科・口腔外科	
H15.11.1	採用	有留ひふみ	歯科・口腔外科	

UOEH NEWS



ベルナルディーノ・ラマツィーニ

ベルナルディーノ・ラマツィーニは、1633年イタリアに生まれ、1714年に81歳の生涯を閉じるまで、近代医学、とりわけ産業医学の学問的先駆者として、また市民や働く人々のための実践的医療の推進者として活躍した医師です。1700年にイタリアのモデナで出版された『働く人々の病気』は、42の職業従事者について、作業の模様、病気の症状、その治療法、予防法などをラマツィーニ自身が実際に調べて著した書物で、日本をはじめ各国で訳されるなど、その後100年以上もこれに匹敵する著書が出なかったほどの著書といわれています。

その初版本が本学ラマツィーニホール・ロビーに展示されています。また「産業医学の父」として慕われる彼の像は、ホール入口左に建てられていて、そのままざしは、21世紀のラマツィーニたちに今日もやさしく注がれています。

産医大ニュース お知らせ等の原稿締切..... 1月号は、12月16日(火)

2月号は、1月22日(水)

E-mail sbkoho@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp

発行 / 学校法人 産業医科大学
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
TEL 093-603-1611(代)
(毎月15日発行)
編集 / 総務部総務課
印刷 / (株)ミドリ印刷